

1 単元名 ボール運動 ベースボール型 「ティーボール」

～より進め！そうはさせないフィールディング！～

2 単元について

(1) 一般的特性

ティーボールは、攻守を規則的に交代しながら、一定の回数内で得点を競い合う「ベースボール型」のゲームである。攻撃側は、打撃や走塁によって攻め、守備側は、捕球や送球によって攻撃側の走塁を阻止し、ゲームを展開していく。「打つ」「投げる」「捕る」などの基本的なボール操作技能に加え、ゲーム状況に応じた戦術的な行動判断が求められる。様々な状況を判断しながら、技術的・戦術的な対応を迫られる場面が多い運動である。

(2) 児童から見た特性

攻撃と守備がルール上で分離した攻守分離型であり、相手からの動きの介入が比較的に少ないため、「打つ」「投げる」「捕る」など基本的なボール操作ができれば、自分たちが工夫した作戦を意図的に遂行しやすい運動である。攻撃側は「どこにボールを打ったら多くの進塁や得点ができるのか」、守備側は「どのように守ったら進塁や得点を防ぐことができるのか」を考えながら競い合い、その攻防に楽しさや喜びを感じることができる。打撃の際は、バッティングスタンドに置いたボールを打つため、動いているボールを打つという技能的な困難さが軽減され、打つ楽しさを味わいやすい。また、他者やボールの状況などの要因による影響を受けることがないため、打撃技術の高まりや戦術に関する判断とその成果を認識しやすい。しかし、ルールやゲーム中の状況判断を伴った技能が複雑で難しいため、意欲が低下することも考えられる。

3 児童の実態

略

4 仮説への迫り方

各部会における仮説検証の手立て ※研究紀要 P5参照

(1) 指導観

児童は、3年生で「ベースボール型のゲーム（ティーボール）」を経験し、「フルスイングすること」や「コーンを折り返して全力で走る」ことを学習している。しかし、技能面の調査や筆記調査から、ベースボール型のゲームに関する知識はある程度もっているが、技能は十分に身に付いていないこと、特にボールを持たないときの動きに課題があることがわかった。

ボール運動領域は、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元では、打ち方を工夫して進塁をねらう攻撃側と、隊形を工夫し、協力して進塁を防ぐ守備側の競争を楽しみ、集団的達成の喜びを味わうことができるような授業を目指したい。そこで、以下の三つの手立てを講じていく。

一つ目に、「学習カード」を活用する。児童の戦術的な気付きや学んだこと、ゲームの様相などについて、教師が行動観察だけで把握することは容易でないと考える。学習カードを活用すること

で、教師は児童の実態把握をすることができ、児童は学びの過程を振り返ったり、見直しをもって学習に臨んだりすることができる。「『ビュン!』と音が鳴るようにバットを振るためにはどうしたらよいだろうか。」「アウトゾーンまで早くボールを運ぶには、どうすればよいだろうか。」などの具体的な問いを立てることで、単元前半では打撃や走塁などの攻撃面について、単元後半では「いかに早くアウトゾーンまで運べるか。」などの守備面について記述することができるようにしていく。加えて、ゲーム状況場面の写真や学習のポイントを吹き出しにして示したり、記述に対して教師がコメントしたりすることも行っていく。また、学習カードから把握した児童やチームの困り感を基に、教師が授業の中で意図的に関わることで、児童の理解が深まるようにしていく。

二つ目に、「学習財」を工夫する。ベースボール型のゲームでは、ルールやゲーム中の状況を伴った技能が複雑で難しいため、守備面での状況判断の複雑さを軽減する、ゲームに必要な技能を緩和する等、児童の発達の段階に応じたルールの設定が必要になる。高学年では、得点を取るだけでなく、守備の隊形をとって得点を与えないようにする動きができることも求められる。守備側の状況判断を簡単にするために、「打者走者の動きを見て判断し、先回りできるアウトゾーンへボールを運ぶ」ことを、単元を通じた課題として学習していく。最少失点に防ぐために、いかに早くアウトゾーンへボールを運ぶかを試行錯誤する中で、ボールをつなぐプレーやカバーのよさに気付いていくことも考えられる。ハンドボールで学習した「ゴールへ素早くパスをつなぐ」ことやフットボールで学習した「ボールを持つ味方の動きを助けるサポートの動き」といった経験と関連付けながら、一つのプレーにチーム全員が協力して関わり合いながら取り組むことができるようにしていきたい。攻撃側においては、バッティングスタンドから吊りしたボールを打つようにしたり、バットの他に軽くて打撃面の広いテニスラケットを準備したりすることで、攻撃局面におけるボール操作の技能的緩和を図る。守備がない、空いている場所をねらうという判断に加えて、打撃技術を高めることができるよう、課題解決での練習回数を確保できるようにする。また、先述した通り、より多くの得点を取りたいという児童の必要感から「ランナーがいる状況からの攻撃」、もしくは、「打者走者は、本塁を踏んだら2周目を走ってもよい」といったルールを追加していくことも考えられる。

三つ目に、「学習過程」を工夫する。ゲームから始まり、そこで出た課題の解決を練習で図り、もう一度ゲームで試して学習を終えることができるようにする。ゲームを通して課題に直面し、ゲームに必要な技能に気付くことで、自ら解決する方法を選んだり、考えて練習したりしていくことが重要であると考え。このような実感を伴った気付きのある学習過程を通して、コツや練習方法などの知識を身に付け、技能を向上させていくことが望ましいと考える。しかし、児童任せの学習過程では、何をしてよいのかを理解できず、活動が停滞することが予想される。そこで、単元前半は、めあてや課題に対応した練習方法や技能習得に関わる知識について、児童の気付きから教師がポイントを押さえて指導する。特に、「どこにボールを打ったらより多くの得点ができるのか。」というような攻撃に関する課題を中心に学習していく。技能や知識が必要のある課題として児童自身に捉えられていくよう、児童の困り感に応じて指導していきたい。単元後半（終盤にかけて）は、児童自らが作戦を決めて、適切な練習方法を選択、又は考案できるようにする。特に、「チームで協力して守り、いかに失点を少なくできるか。」というような守備に関する課題を中心に学習していく。

以上のような手立てを講じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したい。

(2) ゲームのルール

① 始めから提示するルール

《攻撃》

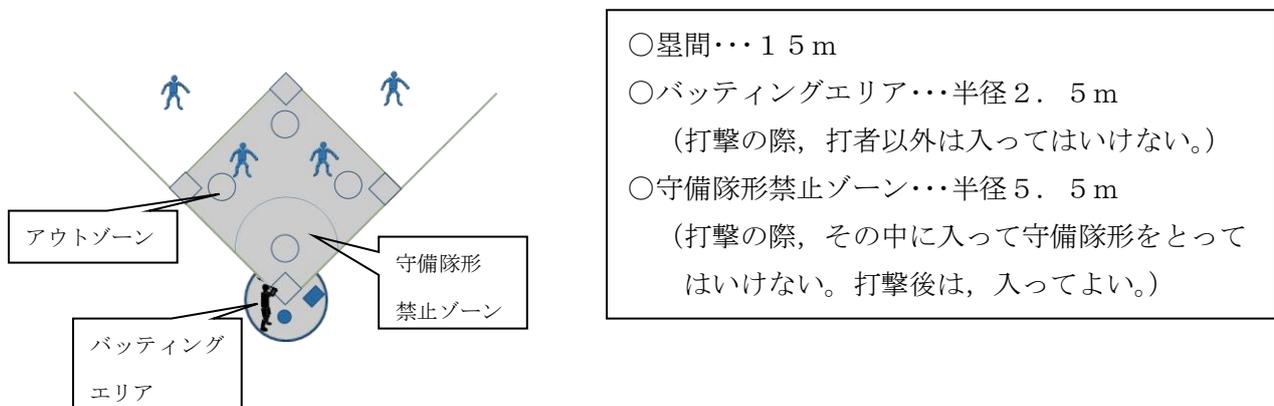
- ・打者はボールを打ったら、ボールを持った守備がアウトゾーンへ先回りして「アウト！」と声をかけるまで、ひたすら塁間を走り続ける。
- ・ボールを持ち、アウトゾーンへ先回りした守備よりも、先にベースを踏んだ塁が得点となる。
- ・1 塁まで進めたら1点、2 塁まで進めたら2点、3 塁まで進めたら3点、本塁まで進めたら4点とする（ベースの踏み忘れは0点とする）。
- ・ランナー（残塁）は無し。
- ・打順が一巡したら、攻守を交代する。
- ・三振は無し。
- ・フェアグラウンドにボールが入らなかったら、打ち直す。

《守備》

- ・内野と外野に分かれ、4人で守る。（調査時は5人）
- ・内野に2人、外野に2人で守る。（調査時は内野に2人、外野に3人）
- ・打球を捕ったら、打者走者の動きを見て判断し、先回りできるアウトゾーンへボールを運ぶ。
- ・アウトゾーンまでボールを運べたら、「アウト！」と声をかける。
- ・アウトゾーンへは、内野の人が入り、外野の人は入ることができないこととする。

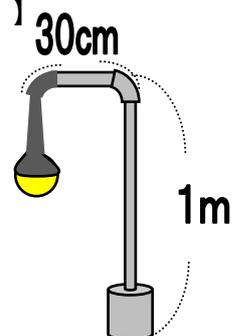
② 追加の可能性のあるルール

- ・打者走者は、本塁を踏んだら2周目を走ってもよい（最大8点となる）。
- ・バッターに応じて、内外野の人数を変えてもよい。
- ・ノーバウンドでボールをキャッチすることができたら、ボーナス1点。



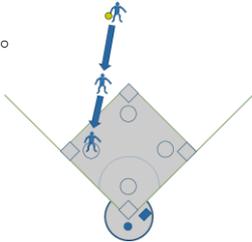
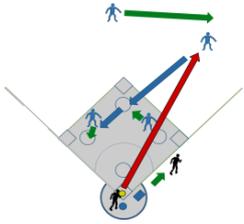
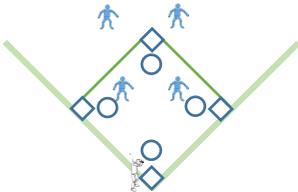
<使用器具>

- ・ケンコー ティーボールバット【S（赤 中学年向き）・M（黄 高学年向き）】
(自分に合った長さ・重さのバットを選択できるようにする。)
- ・テニスラケット
(打撃面が広く、軽い。)
- ・ケンコー ティーボール【12インチ】
(当たっても痛くない・適度な大きさ・打撃による飛距離等を考慮する。)
- ・バッティングスタンド
- ・段ボール（打った後にバットやテニスラケットを入れる。)



- ・ 得点板
- ・ ベース
- ・ ホース 3 m (アウトゾーン用)

(3) 課題解決のために必要とされる練習方法

①	繰り返しバッティング	<p>一人がバッティングスタンドを手に持ち打つ。何度もボールを打つことで、「力強くボールを打つ」「ねらった方向にボールを打つ」技能を身に付けることを目的とする。</p> 
②	つないで運べ!	<p>守備側がボールを捕球した後を想定して行う。ねらったアウトゾーンへ一直線に並び、間に入ったりカバーしたりしながら、協力してボールを運ぶ。「ねらった相手へボールを投げる」「隊形をとった守備から協力して高得点を与えないようにする」技能を身に付けることを目的とする。</p> 
③	スローベースボール	<p>攻撃側はボールを打つ代わりに投げてベースを回る。守備側は飛んできたボールを捕球して、先回りできるアウトゾーンへ協力してボールを運ぶ。攻撃側は「ねらったところ(相手)へボールを投げる」「塁間を全力で走る」技能を、守備側は「ボールの正面に入って捕球する」「ねらった相手へボールを投げる」「隊形をとった守備から協力したプレーで高得点を与えないようにする」技能を身に付けることを目的とする。</p>  <p>※左図は、外野が捕球後、3塁のアウトゾーンをねらった場合。</p>
④	実践形式での練習	<p>ゲームと同様に行う。「チームの特徴に応じた作戦や役割行動(一人一人の動き方)を確認したり、その動きを身に付けたりする」ことを目的とする。</p> 

5 単元の目標

知識 及び技能	ゲームの行い方を理解し、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力, 人間性等	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

6 体育の学力

体 育 の 学 力	
知識・技能	ボール操作 ①止まったボールをバットやテニスラケットでフェアグラウンド内に打つことができる。 ②捕球する相手に向かって、投げるができる。
	ボールを持たないときの動き ③打球方向に移動し、捕球することができる。 ④塁間を全力で走塁することができる。 ⑤守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。
思考・判断・表現	①攻守に応じて動くことができる範囲を設けてプレイするなどのルールを選んでいる。 ②チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。 ③自チームや相手チームの守備位置のよさについて、動作や言葉、絵図などを使って、他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	①簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

7 指導計画 ボール運動 (ティーボール) 9時間 (7/9)

時間	1 (はじめ)	2	3	4	5	6 (なか)	7 (本時)	8	9 (おわり)	
	知識の獲得, 技能の向上					自分たちの考えた得意な作戦やチームの特徴に合った作戦を考案・精選し実行する。				
0 7 10 18 30 38 45	オリエンテーション ・単元を通じた学習のねらい ・ゲームの行い方の説明 ・学習のルール ・用具の扱いについて ・試しのゲーム ・課題をつかむ (チームの課題)	・あいさつ ・準備 ・健康観察 ・課題確認			・ウォーミングアップ ・作戦の確認 (※6時間目以降)					
	ゲーム① 第1次リーグ戦			ゲーム① 第2次リーグ戦						
	<課題解決学習> 児童の困り感に応じて, 教師が動き方のポイントを押さえて指導する。 <予想される課題> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">打撃</div>			<課題解決学習> チームの課題にあった解決方法を選択できるようにする。 <予想される課題> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">捕球・投球</div>			<課題解決学習> チームの特徴に応じた守備 <予想される課題> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">チームの特徴に応じた守備</div>			
	<予想される練習方法> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">繰り返しバッティング</div>			<予想される練習方法> つないで運べ! スローベースボール			<予想される練習方法> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ゲーム形式での練習</div>			
	ゲーム② 第1次リーグ戦			ゲーム② 第2次リーグ戦						
	・反省 (学習カード記述) ※単元のはじめ (1時間目), なか (6時間目), おわり (9時間目) については記述内容の変容を見取るため記述時間を5分とし, それ以外は3分とする。 ・まとめ ・クールダウン ・片付け ・あいさつ									
評価	知識・技能	①打撃	→		④走塁	③捕球	②投球	⑤守備	→	
	思考・判断・表現	①ルールを選ぶ	→			③よさを伝える	→	②作戦を選ぶ	→	
	主体的に学習に取り組む態度	③役割	→	①積極的に取り組む	④勝敗を受け入れる	⑥片付けや整理, 安全	→	②ルールやマナー, 助け合い	→	⑤考えや取組を認める

8 児童への安全・安心な活動のための指導事項と八ヶ崎小のフェアプレー8か条

児童への安全・安心な活動のための指導事項	「八ヶ崎小のフェアプレー8か条」
①課題解決学習の際には、チームごとの運動する場所やチーム内での役割分担を確認，指導する。	◎仲間が失敗したら励まし，積極的に応援します。
②得点板，学習カード，ボールは決められた場所に置くよう指導する。	◎運動のルールやマナーを守ります。 ◎用具の準備や後片付けを自分から進んでやります。
③ゲームの際には，お互いに声をかけ合い，児童同士の衝突がないように配慮する。	◎用具や場所の安全を確かめて運動します。
④怪我人や体調不良者等がいる場合は，保護者や養護教諭等とも連携しながら，本人の様子により可能な範囲で，見合う，教え合う，励まし合う場面で参加できるよう配慮する。	◎集合や移動を素早くします。 ◎審判や係などの役割を自分からやります。 ◎勝敗の結果を受け入れます。
⑤バットやテニスラケットを振るときは，周りに人がいないことを確認する。	◎最後まで全力でプレーします。

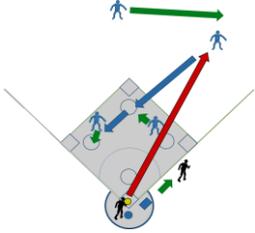
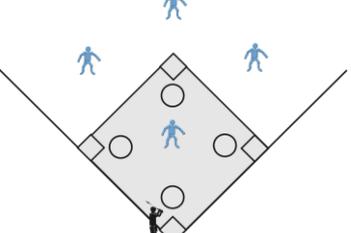
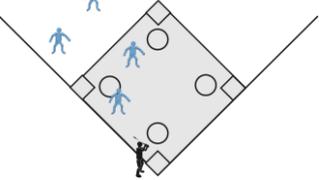
9 本時の指導

(1) 本時の目標 (7/9)

- ・守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができるようにする。 (知識及び技能)
- ・チームの特徴に応じた作戦を選び，自己の役割を確認することができるようにする。
(思考力，判断力，表現力等)
- ・ルールやマナーを守り，仲間と助け合おうとすることができるようにする。
(学びに向かう力，人間性等)

(2) 展開

時配	過程	学習内容と活動	○指導と支援 ◇評価 (体育の学力)	備考
7	あいさつ 準備 ウォーミング アップ 健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ・場作りや用具の準備を行う。 ・使う部位をほぐす。 ・ボール慣れの運動をする。 (2人組でのキャッチボール，繰り返しバッティング) ・学習カードを持って集合し，健康観察をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場の安全を確認するよう指導する。 ○一つ一つの運動が正しくできるように指導する。 ○顔色や服装の確認を行う。 	ビブス ボール バット 等 学習カード
30	課題確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> より早くアウトゾーンにボールを運ぶにはどうすればよいだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに記述した前時の自分の課題とそれに対 	○前回の学習での課題が確認できるように，よく書けていた学習カードを拡大コピーして紹介する。	掲示資料 得点板

	<p>ゲーム①</p> <p>課題解決学習</p> <p>ゲーム②</p>	<p>する教師のコメントを読んで見通しをもってからゲームに臨む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦会議（1分程度） ・チームごとにペアチームと相談して、実戦形式の練習を行うのか、チームで練習方法を考えて時間で区切ってコートを譲り合うのか決めてから練習を行う。 <p>スローベースボール</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・作戦会議（1分程度） <p>【遠くまで打球を飛ばす打者への守備隊形】</p>  <p>【3塁方向に打球を飛ばすと予想される打者への守備隊形】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード記述（3分間） ・めあてに対する振り返りをする。 ・協力をして後片付けをする。 ・使った部位をほぐす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム内での役割を明確にしてから、試合に取り組めるようにする。 ○自分の役割に応じた動きができている児童をほめる。 ○お互いによくなるための時間なので、よかったところや課題点はその都度伝えるように指示を出す。 ○守備の隊形やボールのつなぎ方を確認しながら練習するように指導する。 <p>◇守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。 (知識・技能)</p> <p>「努力を要する児童への指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○守備の隊形をとって得点を与えないようにすることが苦手な児童には、守備位置やその役割を確認したり、互いに言葉がけをしたりするよう指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が発言を行う際、他の児童の意見を受けて発言できるように支援する。 (言語活動) 	<p>作戦ボード</p> <p>学習カード 掲示資料</p>
8	<p>反省 まとめ</p> <p>片付け クールダウン あいさつ</p>			